



埋文だより

第57号

平成24年2月29日発行



竪穴住居跡



1号竪穴住居跡（花卉形）

弥生時代の集落跡

高吉B遺跡(志布志市)では、弥生時代中期(約2,000年前)の竪穴住居跡6基や掘立柱建物跡4棟などが見つかりました。住居跡の中や周辺からは、多数の土器や砥石などの石器、土製勾玉、鉄製品等が出土しています。

中には北部九州や瀬戸内地方で作られるものによく似た土器もあり、何らかの交流があったのではと考えられます。住居跡の規模も比較的大きく、張り出しをもつ花卉形と呼ばれる形が多いのもこの遺跡の特徴です。

目次

- ・ 弥生時代の集落跡 1
- ・ 平成23年度遺跡の発掘調査 2, 3
- ・ 見た・ふれた・学んだ埋蔵文化財 4
- ・ 平成23年度発掘調査現地説明会ほか 5
- ・ 埋文豆知識⑮試掘調査, 確認調査とは 6

速報！ 平成23年度 遺跡の発掘調査

本年度、当センターでは県内11遺跡の発掘を行い、19遺跡の報告書を作成しました。このうち、11遺跡を速報でお知らせします。

詳細は、来年度の「新発見！かごしまの遺跡2012」で紹介します。

① 古代の土坑群 ～外島遺跡～（出水市）



平安時代前半（9世紀前半）の土坑が6基見つかりました。また、5基の土坑からは土師器の甕が出土していて、その内の1基は完全な状態で納められていました。また、鉄製の刀子や青銅製の装身具が出土したものもあります。当時の有力者のお墓だと考えられます。

② 谷間で営まれた水田 ～北山田遺跡～（出水市）



特に注目されるのは、斜面を切り開いて作られた水田遺構です。現代の水田を含めて5枚の水田が重なっており自然災害で埋れる度に畔や水路を含めて作り直されたことが分かりました。この土地の人々が「一所懸命」であったことを物語る証拠です。

③ 弥生時代中期の土器 ～上新田遺跡～（薩摩川内市）



弥生時代中期（約2,000年前）の竪穴住居跡とともに中九州や北部九州で作られたと思われる土器も出土しました。当時の九州地方の交流をうかがい知ることができる資料です。

④ 中世の集落跡 ～山仁田遺跡～（薩摩川内市）



炉跡、道跡、方形竪穴建物跡、掘立柱建物跡や溜池遺構など中世の遺構がまとまって検出され、当時の人々の足音が聞こえてきそうな遺跡です。中でも、炉跡は瓢箪形と楕円形の2種類があり、どちらも熱効率を上げるために壁を粘土で固めたものです。

⑤ 石鏃の製作跡 ～山口遺跡～（薩摩川内市）



縄文時代早期（約7,500年前）の塞ノ神式土器や集石遺構、落とし穴、石鏃（やじり）を製作した跡等が見つっています。中でも、石鏃製作跡では、約1,000点もの石クズがまとまって出土し、石鏃20数点、未製品（製作途中で失敗したもの）10数点が含まれていました。

⑥ 中世の城跡から古代の遺構・遺物～川上城跡～（鹿児島市）

今回の発掘調査で、1200年前（平安時代：9世紀中頃）の建物跡や土坑土師器の壺・甕などや須恵器の壺・甕・壺などが発見されました。これらは、川上城がつくられる以前から人が住んでいたことを示すものです。



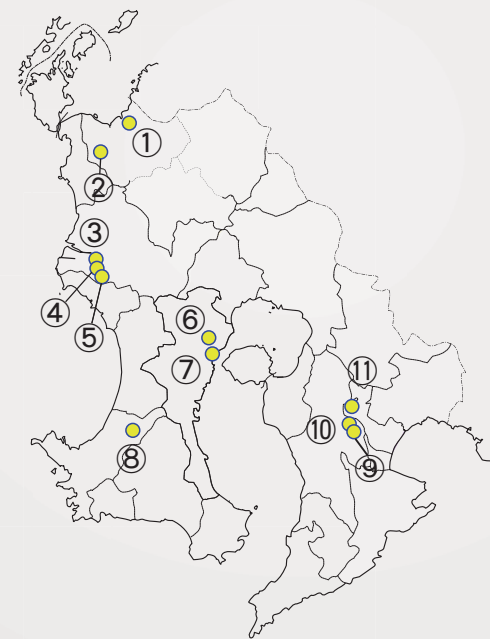
⑦ 篤姫の茶入れ？～鹿児島紡績所跡～（鹿児島市）

鹿児島紡績所跡は、天璋院篤姫ゆかりの今泉島津家の別邸があった所に建てられていました。幕末当時、茶入れは貴重品だったので、もしかしたら篤姫にゆかりの茶入れかもしれません。



⑧ 器に残る文字～芝原遺跡～（南さつま市）

万之瀬川の川岸で、古代から近世にかけての建物跡やお墓、鍛冶炉跡などが見つかりました。また、今から約1000年前の遺物の中に、墨で「酒井」「福」「宅」などが書かれた墨書土器がたくさん発見されました。



⑩ 肝付平野の指導者？ ～立小野堀遺跡～（鹿屋市）



5世紀中頃（約1,500年前）の9号墓から3体の遺骨と副葬品（3振の鉄剣、1振の鉄刀、20本近くの鉄の矢じり等）が出土しました。長さ104cmもある鉄刀をはじめ、他の墓を圧倒する遺物の質・量であり、この地域の指導者と思われる。

⑨ 縄文時代早期の生活跡多数発見 ～田原迫ノ上遺跡～（鹿屋市）

今年度の調査では、縄文時代早期（約8,000～9,000年前）の竪穴住居跡や連穴土坑（燻製などの調理施設）、集石遺構、落とし穴などムラの様子がわかってきました。



⑪ 古代から中世の集落跡 ～天神段遺跡～（大崎町）

平安時代末から鎌倉時代の建物跡や溝状遺構、鉄製品を修理・加工した鍛冶炉や当のお墓、中国などから輸入された陶磁器も出土しています。この時代の集落の様子や人々の暮らしを知る手掛かりとなる資料が数多く見つっています。



見た・ふれた・学んだ 埋蔵文化財

まいぶん出前授業



土器や石器にふれよう

本年度は、小・中学校、高等学校を中心に、大学まで含めて14か所（対象26学級；620名）で実施しました。

「昔のことが良くわかった。うちの畑からも、もしかした遺跡が発見されるかと思うとワクワクした。」

「土器や石器に触れてうれしかった。感触に驚いた。」

「模様付けは難しかったけど、なんとか仕上がった。」

「実際にその時代に存在するものがあり、すごいと思った。」

「歴史に少し興味を持てるようになった。」など感想がありました。

本物にふれる -まいぶんキット貸出事業-

本年度は、11校（対象31学級；926名）への貸出事業を実施し、授業や郷土教育への取り組みに活用されました。

「磨製石器は、つるつるして製作が難しそうだった。」

「土器は薄くて割れそうで緊張した。」等、感想が寄せられました。

来年度も、「まいぶんキット貸出事業」として、本物にふれる機会を提供します。ご活用ください。



火起こし体験をしてみよう

☆対象：県内の希望する学校

☆貸出教材：土器（縄文時代、弥生時代）、石器（石斧、石鏃）など

例：「縄文土器の文様を比べよう」「火起こし体験をしてみよう」

「薩摩焼の歴史」 堂平窯などの出土遺物など

かごしま県民大学連携講座「鹿児島島の遺跡に学ぶ」

本年度も、鹿児島島の大昔の人たちの生活を3回にわたって、わかりやすく紹介してきました。

☆第1回 おまかせ！夏休み自由研究「かごしまの大昔」〈7月26日（火）〉

小学校（5年生以上）・中学生を中心に24名の参加者

「夏休みの参考になった。」

「昔の人の知恵はすごいと思った。」など感想がありました。

☆第2回 「自然とともに生きた南九州の人びと」〈10月21日（金）〉

県民41名の参加者があり、

「観点がすばらしく楽しかった。」

「よく知っている植物や食べものに関連づけて話してくれたので身近な感じがした。」

「縄文人達が食べていただろう植物のいろいろを聞かせていただきました。」など、大変好評でした。

☆第3回 「縄文は、おもしろい」〈2月25日（土）〉

来年度も本年度と同じ時期に開催する予定です。

詳細はお問い合わせください。



第2回講座「自然とともに生きた南九州の人々」

現地説明会を実施しました

やまぐち
山口遺跡(薩摩川内市)
たちおのぼり
立小野堀遺跡(鹿屋市)



建物の柱跡の説明(山口遺跡)



地下式横穴墓の説明(立小野堀遺跡)

鹿児島県立埋蔵文化財センターでは、発掘調査中の遺跡の現地説明会を行っています。発掘調査で見つかった土器や石器、昔の人々の生活の跡を、現地で詳しく紹介します。

平成23年には、山口遺跡(薩摩川内市)と立小野堀遺跡(鹿屋市)で実施しました。山口遺跡では、中世の掘立柱建物という家の跡がいくつも見つかかり、当時の人々の生活の様子を紹介しました。立小野堀遺跡では、古墳時代につくられた「地下式横穴墓」という南九州独自のお墓の形を紹介しました。どちらも多くの見学者の方々に来ていただき、好評を得ることができました。平成24年も現地説明会を開催予定です。詳しい日程や遺跡の場所については、埋文だよりやホームページでお知らせします。

考古学講座 第5回「鹿児島島の縄文遺跡」

南九州を中心とした旧石器時代から近代までの考古学講座を、上野原縄文の森で年5回毎年開催しています。鹿児島の遺跡を取り上げ、郷土の文化遺産のすばらしさについて紹介しています。今年度最後の講座を「鹿児島島の縄文遺跡」というテーマで2月4日に行い当センターの文化財専門職員が縄文時代の区分や地理的特性、生活様式について説明しました。

来年度も、考古学講座を開催いたしますので興味関心のある方は、ぜひご参加ください。

【参加者の感想より】

- ・ 縄文から弥生・古墳時代へ、南九州はどのように変化していったのか? 地域の土豪がどのように住みついていったのかに興味があります。
- ・ 最終回にふさわしい興味深い内容でした。これからも、考古学講座を続けてほしいです。ありがとうございました。



第5回 考古学講座

ショート埋文豆知識 15

試掘調査・確認調査とは

建物や道路をつくることになったり、生活のために開発などでやむを得ず既に知られている遺跡を壊すことになった場合には、発掘調査を行い、その遺跡の情報を記録保存します。しかし、いきなり本格的な発掘調査を行うわけではありません。事前に、試掘調査や確認調査を行います。

この調査は何のために

本格的な発掘調査の範囲や期間について、関係機関などと調整するために行います。試掘調査では、地下の遺構や遺物の有無を調べ、また、確認調査では遺構や遺物が出土した深さ、範囲および時代などを調査するために行います。

こんなやりかたで

試掘調査や確認調査では、遺跡と思われる範囲の中にトレンチと呼ばれる小規模な溝を重機や人力でいくつか掘ります。地層ごとに掘り下げて、遺構や遺物の有無を記録します。その上で、遺跡の正確な範囲がどこまであるのか、どのくらいの深さに遺跡があるのか、どんな種類の遺跡なのかなどを記録します。



トレンチ土層断面



遺構検出状況(柱跡)

その後の利用は

- ①保存を必要とする遺跡の有無や範囲を決めます。
- ②現地保存もしくは記録保存とするのか、話し合います。
- ③本格的な発掘調査をする期間・経費等を関係機関と連絡を取り合って決めます。

埋蔵文化財の内容、種類等を的確に把握しておかなければ遺跡の取り扱いについて判断をすることができません。そういう意味でも、この試掘調査や確認調査は大事な意味をもっています。

当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。お近くにお越しの節はぜひお立ち寄りください。

なお、当センターのホームページは、鹿児島県教育委員会 (<http://www.pref.kagoshima.jp/kyoiku/>) または、上野原縄文の森 (<http://www.jomon-no-mori.jp>) からお入りください。各種事業や講座につきましては、当センターまたは上野原縄文の森 (0995-48-5701) にお問い合わせください。

検索キーワード

上野原縄文の森

検索

クリック

埋文だより 第57号

発行日 平成24年 2月29日
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL:<http://www.jomon-no-mori.jp>
E-mail:maibun@jomon-no-mori.jp